

# 幼児と一緒に遊ぶ時の配慮について

○幼児期は、興味や関心が広がり、直接的・具体的な体験を通して発達していきます。

○幼児と過ごす時には、**保護者自身が幼児と遊ぶことを楽しむ**ことが大切です。

○その上で、幼児が興味をもったことに共感したり、達成したこと（段ボールで電車を作る等）を共に喜んだりすることが大切です。

○家庭では、例えば、一緒に、家庭にある絵本を読んだり、室内の遊具を使って遊んだりなどすることが考えられます。  
また、時には、リズムに乗って体を動かすなど、家庭でも安全に行うことができる体を動かす遊びも考えられます。



## 読み聞かせでは

お子さんとの会話を通じて、ゆったりとした雰囲気の中で言葉のやりとりを楽しんだり、絵本や物語等のお話の世界の面白さを保護者自身も体験したりしてみましょう。

絵本や物語を読んでもらうことを通して、幼児は身近な大人との温かなつながりを感じたり、現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみに出会ったりします。

お子さんの成長に合わせて様々な本に出会う機会をつくることも大切です。

## 作ったりかいたりする遊びでは

幼児は、身近な素材（例えば空き箱や空き容器、広告の紙など）を使い、遊ぶものをつくったり、飾ったり、かいたりすることが好きです。初めは遊びのイメージがはっきりしていなくても、大人が興味を示すことによって、つくったものを何かに見立てたり、動きが加わったりして、次第に遊びのイメージが広がっていきます。遊びのイメージを大切にして、お子さんの表現意欲を満足できるように見守りましょう。

## ままごと遊びでは

幼児は、何かのつもりになって、なりきって遊びます。イメージに沿って母親役、父親役などの役になってままごとをしたり、絵本や物語を聞いてその登場人物に対するあこがれの気持ちからごっこ遊びを楽しんだり、演じたりします。お子さんの発想や素朴な表現を大切に、お子さんとのやりとりを楽しんだり、役になりきって遊ぶことができるアイテムなどを身近な素材を使って、一緒につくってみましょう。

## 歌を歌う、手遊びなど遊びでは

保護者自身が幼い頃に歌っていた歌や手遊びを一緒に歌ったり、手遊びをしたりして、歌を歌う心地よさを味わったり、身近な音楽に親しんだりしてみましょう。大人が楽しんでいる姿に触れることで、一緒に歌ってみたい、やってみたいという気持ちが一層高まり、豊かな表現につながっていきます。